

水道事業ガイドラインに基づく業務指標（P I）の算定結果

※表中の「-」は、平成27年度から「水道事業ガイドライン」の改正により計算方法が変更となったため、平成26年度以前との比較ができないもの。

目標	分類	区分	番号	PI名	単位	計算式	H25年度	H26年度	H27年度	指標の解説	旧番号	
安全で良質な水	運営管理	水質管理	A101	平均残留塩素濃度	(mg/L)	残留塩素濃度合計/残留塩素測定回数	-	-	0.51	給水栓での残留塩素濃度の平均値を表す。塩素臭の発生を減少させるためには、残留塩素濃度0.1mg/Lを確保した上で、なるべく小さな値にすることが望ましい。	1106	
			A102	最大カビ臭物質濃度水質基準比率	(値, 項目名) (%)	(最大カビ臭物質濃度/水質基準値) × 100	-	-	30.0	給水栓におけるカビ臭物質濃度の最大値の水質基準値に対する割合を表す。値は、低いほうがよい。 〔最大基準比の物質〕 2-メチルイソボルネオール	1105	
			A103	総トリハロメタン濃度水質基準比率	(%)	Σ(給水栓の総トリハロメタン濃度/給水栓数)/水質基準値 × 100	-	-	45.0	給水栓における総トリハロメタン濃度の水質基準値に対する割合を示すもので、水道水の安全性を表す。値は低いほうがよい。	1107	
			A104	有機物（TOC）濃度水質基準比率	(%)	Σ(給水栓の有機物（TOC）濃度/給水栓数)/水質基準値 × 100	-	-	26.7	給水栓における有機物（TOC）濃度の水質基準値に対する割合を示すもので、水道水の安全性を表す。値は低いほうがよい。	1108	
			A105	重金属濃度水質基準比率	(値, 項目名) (%)	Σ(給水栓の当該重金属濃度/給水栓数)/水質基準値 × 100	-	-	0.0	給水栓における重金属濃度の水質基準値に対する割合を示すもので、水道水の安全性を表す。値は低いほうがよい。	1110	
			A106	無機物質濃度水質基準比率	(値, 項目名) (%)	Σ(給水栓の当該無機物質濃度/給水栓数)/水質基準値 × 100	-	-	36.4	給水栓における無機物質濃度の水質基準値に対する割合を示すもので、水道水の味、色などの性状を表す。水質基準値より低い値である必要があるが、ほかの指標と併せて評価する。 〔最大基準比の物質〕 カルシウム、マグネシウム等 (硬度)	1111	
			A107	有機化学物質濃度水質基準比率	(値, 項目名) (%)	Σ(給水栓の当該有機化学物質濃度/給水栓数)/水質基準値 × 100	-	-	0.0	給水栓における有機化学物質濃度の水質基準値に対する割合を示すもので、原水の汚染状況及び水道水の安全性を表す。値は低いほうがよい。	1113	
			A108	消毒副生成物濃度水質基準比率	(値, 項目名) (%)	Σ(給水栓の当該消毒副生成物濃度/給水栓数)/水質基準値 × 100	-	-	16.7	給水栓における消毒副生成物濃度の水質基準値に対する割合を示すもので、原水の汚染状況及び水道水の安全性を表す。値は低いほうがよい。 〔最大基準比の物質〕 トリクロロ酢酸	1114	
			A109	農薬濃度水質管理目標比	-	max Σ(各定期検査時の各農薬濃度/各農薬の目標値)	-	-	0.000	給水栓における各農薬濃度と水質管理目標値との比の合計を示すもので、水源の汚染状況及び水道水の安全性を表す。値は低いほうがよい。 〔測定した農薬数〕 3項目	1109	
		施設管理	A201	原水水質監視度	(項目)	原水水質監視項目数	42	42	42	水道事業者が原水水質の項目をどの程度検査しているかを示しており、水道事業者の水質管理水準を表す。	1101	
			A202	給水栓水質検査（毎日）箇所密度	(箇所/100 km ²)	(給水栓水質検査（毎日）採水箇所数/現在給水面積) × 100	5.1	5.1	8.7	給水栓における毎日水質検査に関して、給水面積100km ² 当たりの給水栓水質の監視箇所を示したものであり、水道水の水質管理水準を表す。値は高いほうがよい。	1102	
			A203	配水池清掃実施率	(%)	(5年間に清掃した配水池有効容量 / 配水池有効容量) × 100	6.0	0.0	0.0	配水池有効容量に対する5年簡易清掃した配水池有効容量の割合を示すもので、安全で良質な水への取り組み度合いを表す。値は高いほうがよい。	5002	
			A204	直結給水率	(%)	(直結給水件数/給水件数) × 100	99.0	99.0	95.5	給水件数に対する直結給水件数の割合を示すもので、値は高いほうがよい。	1115	
			A205	貯水槽水道指導率	(%)	(貯水槽水道指導件数 / 貯水槽水道数) × 100	0.0	0.0	0.0	貯水槽水道数に対する指導を実施した件数の割合を示すもので、値は高いほうがよい。	5115	
		事故災害対策	A301	水源の水質事故件数	(件)	年間水源水質事故件数	0	0	0	1年間における水源の水質事故件数を示すもので、水源の突発的水質異常のリスクがどれだけあるかを表す。値は低いほうがよい。	2201	
			A302	粉末活性炭処理比率	(%)	(粉末活性炭年間処理水量/年間浄水量) × 100	該当施設なし	該当施設なし	該当施設なし	粉末活性炭注入設備を保有する浄水場における年間浄水処理量に対する粉末活性炭年間処理水量の割合を示すもので、値は低いほうがよい。	1116	
		施設整備	施設更新	A401	鉛製給水管率	(%)	(鉛製給水管使用件数/給水件数) × 100	0.0	0.0	0.0	給水件数に対する鉛製給水管使用件数の割合を示すものであり、鉛製給水管の解消に向けた取り組みの進捗度合いを表す。値は低いほうがよい。	1117

目標	分類	区分	番号	PI名	単位	計算式	H25年度	H26年度	H27年度	指標の解説	旧番号
施設管理			B101	自己保有水源率	(%)	(自己保有水源水量/全水源水量)×100	46.8	46.9	47.1	水道事業者が保有する全ての水源量に対する、その水道事業者が単独で管理し、水道事業者の意思で自由に取水できる水源量の割合を示すもので、水源運用の自由度を表す。	1004
			B102	取水1m ³ 当たり水源保全投資額	(円/m ³)	水源保全に投資した費用/年間取水量	0.0	0.0	0.00	取水量1m ³ 当たりに対する水質保全に対する投資費用を示すもので、水道事業者の水質保全への取り組み状況を表す。値は高いほうがよい。	1005
			B103	地下水率	(%)	(地下水揚水量 / 年間取水量)×100	—	—	100.0	水源利用水量に対する地下水揚水量の割合を示すもので、水道事業者の水源特性を表す。	4101
			B104	施設利用率	(%)	(一日平均配水量/施設能力)×100	64.6	64.1	62.9	施設能力に対する一日平均配水量の割合を示すもので、水道施設の効率性を表す。経営効率化の観点からは数値が高いほうがよいが、施設の更新・事故に対応できる一定の余裕は必要である。	3019
			B105	最大稼働率	(%)	(一日最大配水量/施設能力)×100	72.0	71.0	73.2	施設能力に対する一日最大配水量の割合を示すもので、水道施設の効率性を表す。値が高いほうが、施設が有効利用されているといえるが、100%に近い場合には、安定的な給水に問題があるといえる。	3020
			B106	負荷率	(%)	(一日平均配水量/一日最大配水量)×100	89.1	89.4	86.0	一日最大配水量に対する一日平均配水量の割合を示すもので、水道施設の効率性を表す。値は高いほうがよい。	3021
			B107	配水管延長密度	(km/km ²)	配水管延長/現在給水面積	5.2	5.3	5.2	給水面積当りの配水管延長を示すもので、お客様からの給水申し込みに対する物理的利便性の度合いを表す。値が高ければ一概に整備状況がよいということではなく、人口密度等により適切な規模がある。	2007
			B108	管路点検率	(%)	(点検した管路延長 / 管路延長) × 100	65.1	64.9	65.5	管路延長に対する1年間で点検した管路延長の割合を示すもので、管路の健全性確保に対する執行度合いを表す。値は高いほうがよい。	5111
			B109	バルブ点検率	(%)	(点検したバルブ数 / バルブ設置数) × 100	—	—	0.0	バルブ設置数に対する1年間で点検したバルブ数の割合を示すもので、管路の健全性確保に対する執行度合いを表す。値は高いほうがよい。	新規
			B110	漏水率	(%)	(年間漏水量 / 年間配水量) × 100	4.8	6.1	6.0	配水量に対する漏水量の割合を示しており、事業効率性を表す。値は低いほうがよい。	5107
			B111	有効率	(%)	(年間有効水量 / 年間配水量) × 100	—	—	91.4	年間配水量に対する年間有効水量の割合を示すもので、水道事業の経営効率性を表す。値は高いほうがよい。	新規
			B112	有収率	(%)	(年間有収水量/年間配水量)×100	89.7	87.9	88.0	年間配水量に対する年間有収水量の割合を示すもので、水道施設を通して供給される水量が、どの程度収益につながっているかを表す。値は高いほうがよい。	3018
			B113	配水池貯留能力	(日)	配水池有効容量/一日平均配水量	0.90	0.90	0.91	一日平均配水量に対する配水池有効容量の割合を示すもので、給水に対する安定性を表す。	2004
			B114	給水人口一人当たり配水量	(L/日・人)	(一日平均配水量/現在給水人口)×1,000	410.7	407.5	396	給水人口一人当たりの配水量を示すもので、家庭用以外の水利用の多少を表す。	2002
			B115	給水制限日数	(日)	年間給水制限日数	0	0	0	1年間に給水制限を実施した日数を示すもので、給水サービスの安定性を表す。値は低いほうがよい。	2005
			B116	給水普及率	(%)	(現在給水人口/給水区域内人口)×100	99.9	99.9	99.9	給水区域内に居住する人口に対する給水人口の割合を示すもので、水道事業のサービス享受の概況及び地域性を表す。	2006
			运营管理			B117	設備点検実施率	(%)	(点検機器数/機械・電気・計装機器の合計数) × 100	—	—
B201	浄水場事故割合	(件/10年・箇所)				10年間の浄水場停止事故件数 / 浄水場数	0.00	0.00	0.00	直近10年間に浄水場が事故で停止した件数を一浄水場当たりの割合として示すものであり、施設の信頼性を表す。値は低いほうがよい。	5101
B202	事故時断水人口率	(%)				(事故時断水人口/現在給水人口)×100	35.6	35.6	32.5	浄水場などの事故時において、給水できない人口の割合を示しており、水道事業者のシステムの融通性、余裕度によるサービスの安定性を表す。値は低いほうがよい。	2204

目標	分類	区分	番号	PI名	単位	計算式	H25年度	H26年度	H27年度	指標の解説	旧番号	
安定した水の供給	事故災害対策		B203	給水人口一人当たり貯留飲料水量	(L/人)	$(\text{配水池有効容量} \times 1/2 + \text{緊急貯水槽容量}) \times 1,000 / \text{現在給水人口}$	-	-	181	災害時に確保されている給水人口一人当たりの飲料水量を示す指標であり、水道事業者の災害対応度を表す。この業務指標は、貯留量を表すもので、必ずしも利用可能量ではない。値は高いほうがよい。	2001	
			B204	管路の事故割合	(件/100 km)	$\text{管路の事故件数} / (\text{管路延長}/100)$	0.0	0.0	2.3	1年間における導・送・配水管路の事故件数を延長100 km当たりの件数に換算したものであり、管路の健全性を表す。値は低いほうがよい。	5103	
			B205	基幹管路の事故割合	(件/100 km)	$\text{基幹管路の事故件数} / (\text{基幹管路延長}/100)$	0.0	0.0	5.1	1年間における基幹管路の事故件数を延長100 km当たりの件数に換算したものであり、基幹管路の健全性を表す。値は低いほうがよい。	2202	
			B206	鉄製管路の事故割合	(件/100 km)	$\text{鉄製管路の事故件数} / (\text{鉄製管路延長}/100)$	0.0	0.0	0.5	1年間における鉄製導・送・配水管路の事故件数を延長100 km当たりの件数に換算したものであり、鉄製管路の健全性を表す。値は低いほうがよい。	5104	
			B207	非鉄製管路の事故割合	(件/100 km)	$\text{非鉄製管路の事故件数} / (\text{非鉄製管路延長}/100)$	0.0	0.0	5.1	1年間における非鉄製導・送・配水管路の事故件数を延長100 km当たりの件数に換算したものであり、非鉄製管路の健全性を表す。値は低いほうがよい。	5105	
			B208	給水管の事故割合	(件/1,000 件)	$\text{給水管の事故件数} / (\text{給水管数} / 1,000)$	8.1	4.9	6.9	給水管数1,000件当たりの給水管の事故件数を示しており、配水管分岐から水道メータまでの給水管の健全性を表す。値は低いほうがよい。	5106	
			B209	給水人口一人当たり平均断水・濁水時間	(時間)	$\Sigma(\text{断水・濁水時間} \times \text{断水・濁水区域給水人口}) / \text{現在給水人口}$	0.00	0.00	0.00	現在給水人口に対する断水・濁水時間を示すものであり、給水の安定度を表す。値は低いほうがよい。	5109	
			B210	災害対策訓練実施回数	(回/年)	年間の災害対策訓練実施回数	-	-	0	1年間に災害対応を実施した回数を示すもので、自然災害に対する危機対応性を表す。	新規	
			B211	消火栓設置密度	(基/km)	消火栓数 / 配水管延長	3.0	3.1	3.2	配水管延長に対する消火栓の設置密度を示すもので、危機対応能力の度合いを表す。	5114	
		環境対策		B301	配水量1m3 当たり電力消費量	(kWh/m ³)	電力使用量の合計 / 年間配水量	0.30	0.30	0.33	配水量 1 m ³ 当たりの電力使用量を示すもので、省エネルギー対策への取り組み度合いを表す。値は低いほうがよい。	4001
			B302	配水量1m3 当たり消費エネルギー	(MJ/m ³)	エネルギー消費量 / 年間配水量	1.2	1.2	3.35	配水量当たりの消費エネルギー量の割合を示すもので、省エネルギー対策への取り組み度合いを表す。値は低いほうがよい。	4002	
			B303	配水量1m3 当たり二酸化炭素(CO ₂) 排出量	(g・CO ₂ /m ³)	$[\text{二酸化炭素 (CO}_2\text{) 排出量} / \text{年間配水量}] \times 10^6$	298	298	167	年間配水量に対する総二酸化炭素(CO ₂) 排出量であり、環境保全への取り組み度合いを表す。値は低いほうがよい。	4006	
			B304	再生可能エネルギー利用率	(%)	$(\text{再生可能エネルギー設備の電力使用量} / \text{全施設の電力使用量}) \times 100$	0.000	0.000	0.000	全施設の電力使用量に対する再生可能エネルギーの利用の割合を示すもので、環境負荷低減に対する取り組み度合いを表す。値は低いほうがよい。	4003	
			B305	浄水発生土の有効利用率	(%)	$(\text{有効利用土量} / \text{浄水発生土量}) \times 100$	100.0	100.0	100.0	浄水発生土量に対する有効利用土量の割合を示すもので、環境保全への取り組み度合いを表す。値は高いほうがよい。	4004	
			B306	建設副産物のリサイクル率	(%)	$(\text{リサイクルされた建設副産物量} / \text{建設副産物発生量}) \times 100$	99.5	99.6	99.4	水道事業における工事などで発生する建設副産物のうち、リサイクルされた建設副産物の割合を示すもので、環境保全への取り組み度合いを表す。値は高いほうがよい。	4005	
		施設管理		B401	ダクトイル鉄管・鋼管率	(%)	$[(\text{ダクトイル鉄管延長} + \text{鋼管延長}) / \text{管路延長}] \times 100$	59.3	59.5	61.2	全管路延長に対するダクトイル鉄管・鋼管の割合を示すもので、管路の母材強度に視点を当てた指標。埋設管がふくそうしている路線、車両荷重の負荷が大きい路線においては、管母材の強度が必要である。	5102
			B402	管路の新設率	(%)	$(\text{新設管路延長}/\text{管路延長}) \times 100$	0.6	0.3	0.16	管路延長に対する1年間に新設した管路延長の割合を示すもので、管路整備度合いを表す。B 107 (配水管延長密度)、B 116 (給水普及率) などと併せた評価が必要である。	2107	
			B501	法定耐用年数超過浄水施設率	(%)	$(\text{法定耐用年数を超過している浄水施設能力}/\text{全浄水施設能力}) \times 100$	0.00	0.00	0.0	全浄水施設能力に対する法定耐用年数を超過した浄水施設の浄水能力の割合を示すもので、施設の老朽化度、更新の取り組み度合いを表す。値は低いほうがよい。	2101	

目標	分類	区分	番号	PI名	単位	計算式	H25年度	H26年度	H27年度	指標の解説	旧番号
施設整備	施設更新		B502	法定耐用年数超過設備率	(%)	(法定耐用年数を超過している機械・電気・計装設備などの合計数/機械・電気・計装設備などの合計数)×100	64.3	64.3	91.2	水道施設に設置されている機械・電気・計装設備の機器合計数に対する法定耐用年数を超過している機器数の割合を示すもので、機器の老朽化度、更新の取り組み度状況を表す。値は低いほうがよい。	2102
			B503	法定耐用年数超過管路率	(%)	(法定耐用年数を超過している管路延長/管路延長)×100	5.2	4.5	4.5	管路の延長に対する法定耐用年数を超過している管路の割合を示すもので、管路の老朽化度、更新の取り組み度状況を表す。値は低いほうがよい。	2103
			B504	管路の更新率	(%)	(更新された管路延長/管路延長)×100	1.3	1.3	0.62	管路の延長に対する更新された管路延長の割合を示すもので、信頼性確保のための管路更新の執行度合いを表す。値は高いほうがよい。	2104
			B505	管路の更生率	(%)	(更生された管路延長/管路延長)×100	0.000	0.000	0.000	管路の延長に対する更生を行った管路の割合を示すもので、信頼性確保のための管路維持の執行度合いを表す。	2105
			B601	系統間の原水融通率	(%)	(原水融通能力/全浄水施設能力)×100	0.0	0.0	0.0	全浄水施設能力に対する他系統からの融通可能な原水水量の割合を示すものであり、水運用の安定性、柔軟性及び危機対応性を表す。値は高いほうがよい。	2206
		B602	浄水施設の耐震化率	(%)	(耐震対策の施された浄水施設能力/全浄水施設能力)×100	71.4	71.4	71.4	全浄水施設能力に対する耐震対策が施されている浄水施設能力の割合を示すもので、地震災害に対する浄水処理機能の信頼性・安全性を表す。値は高いほうがよい。	2207	
		B602-2	浄水施設の主要構造物耐震化率	(%)	[(沈殿・ろ過を有する施設の耐震化浄水施設能力+ろ過のみ施設の耐震化浄水施設能力)/全浄水施設能力]×100	-	-	71.4	浄水施設のうち主要構造物である沈殿池及びろ過池に対する耐震対策が施されている割合を示すもので、B602（浄水施設の耐震化率）の進捗を表す。値は高いほうがよい。	新規	
		B603	ポンプ所の耐震化率	(%)	(耐震対策の施されたポンプ能力/耐震化対象ポンプ能力)×100	-	-	71.4	耐震化対象ポンプ能力に対する耐震対策が施されたポンプ所の能力を示すもので、地震災害に対するポンプ施設の信頼性・安全性を表す。値は高いほうがよい。	2208	
		B604	配水池の耐震化率	(%)	(耐震対策の施された配水池有効容量/配水池等有効容量)×100	94.0	94.0	94.0	全配水池容量に対する耐震対策の施された配水池の容量の割合を示すもので、地震災害に対する配水池の信頼性・安全性を表す。値は高いほうがよい。	2209	
		B605	管路の耐震管率	(%)	(耐震管延長/管路延長)×100	36.1	37.4	38.7	導・送・配水管（配水支管を含む。）全ての管路の延長に対する耐震管の延長の割合を示すもので、地震災害に対する水道管路網の信頼性・安全性を表す。値は高いほうがよい。	2210	
		B606	基幹管路の耐震管率	(%)	(基幹管路のうち耐震管延長/基幹管路延長)×100	-	-	22.8	基幹管路の延長に対する耐震管の延長の割合を示すもので、地震災害に対する基幹管路の信頼性・安全性を表す。値は高いほうがよい。	新規	
		B606-2	基幹管路の耐震適合率	(%)	(基幹管路のうち耐震適合性のある管路延長/基幹管路延長)×100	-	-	93.4	基幹管路の延長に対する耐震適合性のある管路延長の割合を示すもので、B606（基幹管路の耐震管率）を補足する指標。値は高いほうがよい。	新規	
		B607	重要給水施設配水管路の耐震管率	(%)	(重要給水施設配水管路のうち耐震管延長/重要給水施設配水管路延長)×100	-	-	1.0	重要給水施設への配水管の総延長に対する耐震管延長の割合を示すもので、大規模な地震災害に対する重要給水施設配水管路の信頼性・安全性を表す。値は高いほうがよい。	新規	
		B607-2	重要給水施設配水管路の耐震適合率	(%)	(重要給水施設配水管路のうち耐震適合性のある管路延長/重要給水施設配水管路延長)×100	-	-	94.2	重要給水施設への配水管の総延長に対する耐震適合性のある管路延長の割合を示すもので、B607（重要給水施設配水管路の耐震管率）を補足する指標。値は高いほうがよい。	新規	
		B608	停電時配水量確保率	(%)	(全施設停電時に確保できる配水能力/一日平均配水量)×100	-	-	140.7	一日平均配水量に対する全施設が停電した場合に確保できる配水能力を示すものであり、災害時・広域停電時における危機対応性を表す。値は高いほうがよい。	2216	
		B609	薬品備蓄日数	(日)	(平均凝集剤貯蔵量/凝集剤一日平均使用量)又は(平均塩素剤貯蔵量/塩素剤一日平均使用量)のうち、小さい方の値	26	26	26	浄水場で使う薬品の平均貯蔵量に対する一日平均使用量の割合を示すもので、災害に対する危機対応力を表す。	2211	
		B610	燃料備蓄日数	(日)	平均燃料貯蔵量/一日燃料使用量	0.4	0.4	0.3	停電時においても、自家発電設備で浄水場の稼働を継続できる日数を示すもので、災害時の対応性を表す。値は高いほうがよい。	2212	

目標	分類	区分	番号	PI名	単位	計算式	H25年度	H26年度	H27年度	指標の解説	旧番号
			B611	応急給水施設密度	(箇所/100 km ²)	応急給水施設数/(現在給水面積/100)	—	—	3.4	100km ² 当たりの応急給水施設数を示すもので、災害時などにおける飲料水の確保のしやすさを表す。応急給水施設の整備などに当たっては、密度だけでなく、距離についても十分な検討が必要である。	2205
			B612	給水車保有度	(台/1,000 人)	給水車数/(現在給水人口/1,000)	0.000	0.000	0.000	給水人口1,000人当たりの給水車保有台数を示すものであり、事故・災害などの緊急時における応急給水活動の対応性を表す。値は高いほうがよい。	2213
			B613	車載用の給水タンク保有度	(m ³ /1,000 人)	車載用給水タンクの容量/(給水人口/1,000)	0.100	0.100	0.126	給水人口1,000人当たりの車載用給水タンク容量を示すものであり、主に大地震などが発生した場合における応急給水活動の対応性を表す。値は高いほうがよい。	2215
			C101	営業収支比率	(%)	[(営業収益-受託工事収益)/(営業費用-受託工事費)]×100	121.9	120.5	119.5	営業収益の営業費用に対する割合を示すもので、水道事業の収益性を表す。収益的収支が最終的に黒字であるためには、この値が100%を一定程度上回っている必要がある。	3001
			C102	経常収支比率	(%)	[(営業収益+営業外収益)/(営業費用+営業外費用)]×100	114.7	116.7	112.4	経常費用が経常収益によってどの程度賄われているかを示すもので、水道事業の収益性を表す。経常収支比率が100%を上回っていれば良好な経営状態といえる。	3002
			C103	総収支比率	(%)	(総収益/総費用)×100	114.2	115.6	115.3	総費用が総収益によってどの程度賄われているかを示すもので、水道事業の収益性を表す。本来の経営活動とは直接結びつかない収支も含まれることから、C101(営業収支比率)やC102(経常収支比率)と併せて分析する必要がある。	3003
			C104	累積欠損金比率	(%)	[累積欠損金/(営業収益-受託工事収益)]×100	0.0	0.0	0.0	受託工事収益を除く営業収益に対する累積欠損金の割合を示すもので、水道事業経営の健全性を表す。累積欠損金が発生しているとは言いえないので、0%であることが望ましい。	3004
			C105	繰入金比率(収益的収入分)	(%)	(損益勘定繰入金/収益的収入)×100	0.4	0.4	0.8	収益的収入に対する損益勘定繰入金の依存度を示しており、事業の経営状況を表す。収益的収支の赤字補填的に一般会計から繰り入れを行うのは、独立採算の考え方から望ましくない。	3005
			C106	繰入金比率(資本的収入分)	(%)	(資本勘定繰入金/資本的収入計)×100	0	1.2	0.0	資本的収入に対する資本勘定繰入金の依存度を示しており、事業の経営状況を表す。独立採算制の観点からは、基本的にこの指標の値は低いほうが望ましい。	3006
			C107	職員一人当たり給水収益	(千円/人)	給水収益/損益勘定所属職員数	139,761	135,229	133,863	損益勘定職員一人当たりの給水収益を示すもので、水道事業における生産性について給水収益を基準として把握するための指標。この数値が高いほど職員の生産性が高いといえる。	3007
			C108	給水収益に対する職員給与費の割合	(%)	(職員給与費/給水収益)×100	5.6	5.8	5.5	給水収益に対する職員給与費の割合を示すもので、水道事業の収益性を表す。給水収益は、様々な給水サービスに充てられるため、職員給与費の上昇によってこの指標が高くなることは好ましくない。	3008
			C109	給水収益に対する企業債利息の割合	(%)	(企業債利息/給水収益)×100	5.8	6.0	6.0	給水収益に対する企業債利息の割合を示すもので、水道事業の効率性及び財務安全性を表す。値は低いほうがよい。	3009
			C110	給水収益に対する減価償却費の割合	(%)	(減価償却費/給水収益)×100	24.0	25.3	25.7	給水収益に対する減価償却費の割合を示すもので、水道事業の収益性を表す。事業経営の安定性(施設更新費用の確保)の観点から、年度間の格差は小さいほうが望ましい。	3010
			C111	給水収益に対する建設改良のための企業債償還元金の割合	(%)	(建設改良のための企業債償還元金/給水収益)×100	15.0	15.5	16.1	給水収益に対する建設改良のための企業債償還元金の割合を示すもので、建設改良のための企業債償還元金が経営に及ぼす影響を表す。C109(給水収益に対する企業債利息の割合)と併せて分析を行うことで、企業債が資金収支に及ぼす影響を把握することができる。	3011
			C112	給水収益に対する企業債残高の割合	(%)	(企業債残高/給水収益)×100	327.8	341	349.7	給水収益に対する企業債残高の割合を示すもので、企業債残高が規模及び経営に及ぼす影響を表す。値は低いほうがよい。	3012

目標	分類	区分	番号	PI名	単位	計算式	H25年度	H26年度	H27年度	指標の解説	旧番号
健全な事業経営	財務	健全経営	C113	料金回収率	(%)	(供給単価/給水原価)×100	108.1	104.8	108.8	給水原価に対する供給単価の割合を示すもので、水道事業の経営状況の健全性を表す。100%を下回っている場合、給水にかかる費用が料金収入以外の収入で賄われていることを意味する。	3013
			C114	供給単価	(円/m ³)	給水収益/年間有収水量	152.2	151.8	150.9	有収水量1m ³ 当たりの給水収益の割合を示すもので、水道事業でどれだけの収益を得ているかを表す。値は低いほうがよい。	3014
			C115	給水原価	(円/m ³)	[経常費用- (受託工事費+ 材料及び不要品売却原価+ 附帯事業費+ 長期前受金戻入)] / 年間有収水量	-	-	138.6	有収水量1m ³ 当たりの経常費用(受託工事費を除く。)の割合を示すもので、水道事業でどれだけの費用がかかっているかを表す。値は低いほうが望ましい。	3015
			C116	1か月10 m ³ 当たり家庭用料金	(円)	1か月10m ³ 当たり家庭用料金	1,050	1,080	1,080	水道事業体間の料金比較の対象として、1か月に10m ³ 使用した場合における水道料金を示し、契約者の経済的利便性を表す。	3016
			C117	1か月20 m ³ 当たり家庭用料金	(円)	1か月20m ³ 当たり家庭用料金	2,310	2,370	2,370	一般的な家庭の使用水量を想定し、1か月に20m ³ 使用した場合における水道料金を示し、契約者の経済的利便性を表す。	3017
			C118	流動比率	(%)	(流動資産/流動負債)×100	1,059.4	327.4	286.5	流動負債に対する流動資産の割合を示すものであり、事業の財務安全性を表す。値は100%以上であることが必要であり、100%を下回れば、不良債権が発生している可能性が高い。	3022
			C119	自己資本構成比率	(%)	[(資本金+剰余金+評価差額等+繰延収益)/ 負債・資本合計] × 100	-	-	54.8	総資本(負債及び資本)に対する自己資本の割合を示しており、財務の健全性を表す。値は高いほうがよい。	3023
			C120	固定比率	(%)	[固定資産/(資本金+剰余金+評価差額+繰延収益)] × 100	-	-	165.0	自己資本に対する固定資産の割合を示すものであり、財務の安定性を表す。この比率が100%以下であれば、財務面で安定的といえる。値は低いほうがよい。	3024
			C121	企業債償還元金対減価償却費比率	(%)	(建設改良のための企業債償還元金/当年度減価償却費)×100	62.5	61.0	62.6	当年度減価償却費に対する企業債償還元金の割合を示すもので、投下資本の回収と再投資とのバランスを見る指標。この指標が100%を超えると、投資の健全性は損なわれることになる。	3025
			C122	固定資産回転率	(回)	(営業収益-受託工事収益)/[(期首固定資産+期末固定資産)/2]	0.20	0.20	0.15	固定資産(年度平均)に対する営業収益の割合を示すものであり、1年間に固定資産額の何倍の営業収益があったかを示す指標。値が高い場合は、施設が有効に稼働し、固定資産として投下された資本が有効に活用されていることを示している。	3026
			C123	固定資産使用効率	(m ³ /万円)	年間配水量/有形固定資産	11.1	10.9	10.5	有形固定資産に対する年間総配水量の割合を示すもので、施設の使用効率を表す。値が大きいほど施設が効率的であることを意味し、値が低い場合は、資産の効率的活用についての検討を要する。	3027
			C124	職員一人当たり有収水量	(m ³ /人)	年間総有収水量 / 損益勘定所属職員数	-	-	887,000	1年間における損益勘定職員一人当たりの有収水量を示すもので、水道サービスの効率性を表す。値は高いほうがよい。	3109
			C125	料金請求誤り割合	(件/1,000件)	誤料金請求件数 / (料金請求件数/1,000)	0.00	0.00	0.00	料金請求総件数に対する誤請求の件数を示すもので、料金関連業務の適正度を表す。値は低いほうがよい。	5005
			C126	料金収納率	(%)	(料金納入額/ 調定額) × 100	-	-	99.7	1年間の水道料金総調定額に対して、決算確定時において納入されている収入額の割合を示すもので、水道事業の経営状況の健全性を表す。値は高いほうがよい。	5006
			C127	給水停止割合	(件/1,000件)	給水停止件数 / (給水件数/1,000)	15.8	15.8	10.7	給水件数に対する給水停止件数の割合を示すもので、水道料金の未納状況の度合いを見る指標。値は低いほうがよい。	5007
			C201	水道技術に関する資格取得度	(件/人)	職員が取得している水道技術に関する資格数 / 全職員数	-	-	1.89	職員が取得している水道技術に関する資格数の全職員に対する割合を示すもの。専門知識のある水道技術者確保、育成を行う上での一つの目安となる。値は高いほうがよい。	3101
			C202	外部研修時間	(時間/人)	(職員が外部研修を受けた時間×受講人数) / 全職員数	2.7	2.7	1.8	職員一人当たりの外部研修の受講時間を示すもので、技術継承及び技術向上への取り組み状況を表す。値は高いほうがよい。	3103
			C203	内部研修時間	(時間/人)	(職員が内部研修を受けた時間×受講人数) / 全職員数	0.0	0.0	0.0	職員一人当たりの内部研修の受講時間を示すもので、技術継承及び技術向上への取り組み状況を表す。値は高いほうがよい。	3104

目標	分類	区分	番号	PI名	単位	計算式	H25年度	H26年度	H27年度	指標の解説	旧番号	
組織・人材	人材育成		C204	技術職員率	(%)	(技術職員数 / 全職員数) × 100	33.3	33.3	33.3	全職員に対する技術職員の割合を示すもので、技術面での維持管理体制を表す。この値が低くなることは、直営での施設の維持管理が困難となることにつながる。	3105	
			C205	水道業務平均経験年数	(年/人)	職員の水道業務経験年数 / 全職員数	4.4	4.4	6.8	全職員の水道業務平均経験年数を示すもので、人的資源としての専門技術の蓄積度合いを表す。この値が大きい方が、職員の水道事業に関する専門性が高いと考えられる。値は高いほうがよい。	3106	
			C206	国際協力派遣者数	(人・日)	Σ (国際協力派遣者数 × 滞在日数)	0	0	0	国際協力に派遣された人数とその滞在日数の積で、国際協力への関与の度合いを表す。値は高いほうがよい。	6001	
			C207	国際協力受入者数	(人・日)	Σ (国際協力受入者数 × 滞在日数)	0	0	0	受け入れた海外の水道関係者の人数と滞在日数の積で、国際協力への関与の度合いを表す。値は高いほうがよい。	6101	
	業務委託		C301	検針委託率	(%)	(委託した水道メーター数 / 水道メーター設置数) × 100	100.0	100.0	100.0	水道メーター設置数に対する検針委託している水道メーター数の割合を示すもので、業務委託の度合いを表す。	5008	
			C302	浄水場第三者委託率	(%)	(第三者委託した浄水場の浄水施設能力 / 全浄水施設能力) × 100	0.0	0.0	0.0	全浄水場の浄水施設能力のうち、第三者委託している浄水場の浄水施設能力の割合を示すもので、第三者委託の導入状況を表す。	5009	
	お客さまとのコミュニケーション	情報提供		C401	広報誌による情報の提供度	(部/件)	広報誌などの配布部数 / 給水件数	3.0	3.0	3.0	給水件数に対する広報誌などの発行部数の占める割合を占めずもので、お客様への事業内容の公開度合いを表す。値は高いほうがよい。	3201
				C402	インターネットによる情報の提供度	(回)	ウェブページへの掲載回数	—	—	6	インターネットによる水道事業の情報発信回数を表すもので、お客様への事業内容の公開度合いを表す。値は高いほうがよい。	新規
				C403	水道施設見学者割合	(人/1,000人)	見学者数 / (現在給水人口/1,000)	4.0	4.0	5.3	給水人口に対する水道施設見学者の割合を示すもので、お客様との双方コミュニケーションの推進度合いを表す。値は高いほうがよい。	3204
		意見収集		C501	モニタ割合	(人/1,000人)	モニタ人数 / (現在給水人口/1,000)	0.000	0.000	0.000	現在給水人口に占めるモニタ人数の割合を表すもので、お客様との双方コミュニケーションの推進度合いを表す。値は高いほうがよい。	3202
			C502	アンケート情報収集割合	(人/1,000人)	アンケート回答人数 / (現在給水人口/1,000)	0.00	0.00	0.00	給水人口に対する1年間に実施したアンケート調査に回答した人数の割合を示し、お客様のニーズの収集実行度を表す。値は高いほうがよい。	3203	
			C503	直接飲用率	(%)	(直接飲用回答数 / アンケート回答数) × 100	アンケート実施なし	アンケート実施なし	アンケート実施なし	水道水を飲用としているお客様の割合を示すものであり、水道水の飲み水として評価が高いということになる。値は高いほうがよい。	3112	
			C504	水道サービスに対する苦情対応割合	(件/1,000件)	水道サービス苦情対応件数 / (給水件数/1,000)	0.20	0.20	1.10	給水件数に対する水道サービスに関する苦情対応件数の割合を示すもので、水道サービス向上に対する取り組み状況を表す。値は低いほうがよい。	3205	
		C505	水質に対する苦情対応割合	(件/1,000件)	水質苦情対応件数 / (給水件数/1,000)	0.20	0.20	0.40	給水件数に対する水道水の水質に関する苦情対応件数の割合を示すもので、水道水質の向上に対する取り組み状況を表す。値は低いほうがよい。	3206		
		C506	水道料金に対する苦情対応割合	(件/1,000件)	水道料金苦情対応件数 / (給水件数/1,000)	0.00	0.00	0.00	給水件数に対する水道料金に関する苦情対応件数の割合を示すもので、お客様の水道料金への満足度を表す。値は低いほうがよい。	3207		